

work 3

話し合いと問題解決

単元の目標

自分たちが暮らす地域のことを、自分たちで決め、問題を解決していく姿勢・能力を身に付けるための基本的な事柄として、一見対立する意見を話し合いによって整理し、解決に導くための技術を学ぶこと

構成のねらい・授業の工夫

本ワークは、意見の対立点を可視化する活動と、可視化した結果から解決策を導き出す活動の2つの活動によって構成されています。

特に、解決策を導き出す活動では、結果だけではなく、原因と結果の関係に着目することで、（異なる主張をする）それぞれの利益を損なわずに問題の解決を図れるケースがあることを体験を通して学ぶことを目指します。

授業計画

時間	学習内容	生徒の学習活動
5分	資料の読み込み	活動（ワーク）の前提となるCASEを読み込む
10分	ワークシートの作成、ロールプレイ	ワークシートを基に、CASEの問題を分析、検討し、グループ内で問題解決に向けたロールプレイを行う
5分	解決策の検討	グループ内で問題の解決策を検討する
5分	まとめ・振り返り	「原因と結果」に着目した問題の分析、対応策の検討方法を学んだことを復習するとともに、日頃の生活において活用できる場面がないかどうかを検討する

準備物

- CASE (P.4)
- ワークシート (P.5)

主権者教育と本ワーク

主権者意識とはどのようなものでしょうか。

「政治」＝「私たちに関わる問題の解決を通して、望ましい地域を作っていくこと」と定義すると、望ましい主権者（＝市民）として、一見すると対立する価値観の間にあったとしても合意点を見出し、解決に向けて取り組む人物像が描かれます。

主権者教育を通じた到達点としては、生徒たちが学校や家庭といった閉じた世界を出て自ら地域に赴き、地域の「人・もの・こと」に関わり、そこにある問題を共有しながら、地域に暮らす人々と協働をして、問題解決を図ることが期待されます。しかしながら、「望ましい地域の姿」（＝価値観）は客観的な優劣がつけにくく、時として対立が生まれることもあります。

例えば、副教材『私たちが拓く日本の未来（活用のための指導資料）』では、実践的な学習活動を行う上で取り入れたい学習方法の1つに「正解が一つに定まらない問いに取り組む」ことを取り上げています。そこでは、葛藤を抱く課題に対して、自ら根拠に基づいた主張を述べることで、自分とは異なる立場の者の主張の根拠を読み取ることが求められることが紹介されています。

主権者教育を含む、シティズンシップ教育を考えていく上で多くの示唆を与えてくれる英国の『クリック・レポート』では、「意見の分かれる問題」に対峙する必要性やそのための能力について、より踏み込んだ言及がなされています。そこでは、政治的知識よりも広い意味を持ち、自身が市民生活において有用な存在となるために求められる知識や技能、価値観からなる「政治的教養」に関する教育なしでは、生徒たちがこれらの問題に対して宙ぶらりんの状態に置かれてしまうことがまず指摘されています。そして、これらの問題に対峙していくために、偏見や先入観を見分ける能力・判断力、論理を評価・判断する能力、ならびに目前に提示された証拠を考察したり別の解釈・視点・証拠資料を探ったりする能力といったものが求められると、より具体的な能力への言及がなされています。

本ワークでは、原因と結果の関係に着目し、問題解決を図るための技法として、意見の対立点を可視化すること及び可視化した結果から解決策を導き出すことを学んでいきます。本ワークにおける問題解決の経験を通して、生徒たちが自分たちの身近なところに問題を発見し、当事者として解決に取り組む際の技法についての学びを得ていくことが期待されます。

本ワークと選挙について

選挙は、人々の間の多様な価値観の対立を乗り越える主要な機会として機能しています。しかしながら、意思決定の方法として選挙や多数決が万能の手段というわけではありません。例えば、様々に存在する政策課題に対して、自身の選好とすべて合致する見解を持った政党や候補者を見つけることは非常に困難であることが指摘できます。また、単一のテーマが争われた場合においても、多数決を乱用すると、多数者の専制とも言いかねない事態を招きかねません。例えば、都市と地方、若者と高齢者などの緊張関係はその対立が想像しやすい事例でしょうか。

選挙をはじめとする多数決による意思決定の結果に実効性や納得感を高めるためには、意思決定に至るまでの過程を充実させていくことが重要です。本ワークで経験する話し合いの技法などを活用することで、お互いの立場や見解の違いを乗り越え、より深い洞察を導くことや、その結果として選挙結果に対する信頼を向上していくことなどが期待されます。

展開の仕方

○説明

説明例

「政治の役割として、社会的な問題を解決することが言われますが、次のケースでは、どのような問題解決が図れるでしょうか。（以下は模擬選挙の直前に実施する場合のコメント）模擬選挙を行うにあたって、『政治の役割』を考えてみましょう。」

○活動(ワーク)

① 論点を整理する (5分)

説明例

「今回のCASEを読んで、お祭りを続けることとやめること、それぞれの良い点／悪い点をグループで整理しましょう。」

② グループディスカッション (5分)

説明例

「『悪い点』として挙げられたことの原因は为什么呢。先ほど、グループで共有した『悪い点』の1つを取り上げて、ワークシートを使用して、グループで整理してみてください。」

③ 解決策を考える (5分)

説明例

「今回のCASEにおける主要な問題の1つに『ごみの捨て方』があります。この『ごみの捨て方』についてお祭りを中止してごみのポイ捨てが行われないようにすること以外のよい方法があれば、この争いは解決することができそうです。

グループの中で、お祭りを中止する派としない派に分かれて、お互いが納得する解決策がないかどうかを話し合ってみましょう。」

○まとめ・振り返り

▼レクチャー

- 政治とは、私たちに関わる問題の解決を通して、望ましい地域を作っていく活動であり、社会的な問題解決の活動であると言えます。
- 社会的問題解決は、今回扱った事例のように「原因」に着目することで、対立しているように見える主張の疑似的な対立関係を解くことができることがあります。
- 選挙に当たり、自身の興味のある社会的問題について、問題の構造とその解決策を考えていくことは、主体的な投票を行っていく上で重要な活動の1つとなります。

▼リフレクション(問いかけ)

- ワークを行ってみて、どのような感想を持ちましたか。周りの席の人と感想を話し合ってください。
- 皆さんの周りに、今日、経験した手法を用いて解決してみたい課題はありませんか。解決してみたい課題がある人は、教えてください。

CASE 【お祭りをめぐる地域課題】

〇〇市では、古くから続くお祭りがあります。
このお祭りは、地域の人が子どものころから慣れ親しみ、日頃は忙しくて顔を合わすことのできないご近所さんも会話を交わす機会となる、地域で愛される行事でした。
しかし、昨年、このお祭りが伝統あるお祭りとしてTV番組で紹介されたことで、様子は一変。大勢の観光客が訪れるようになりました。
大勢の観光客が訪れることは、地域の活性化につながることもある反面、新しい問題を生じさせることもあるようです。



このまちがこれだけ注目されるなんてめったにないチャンスだ！
もっと様々なメディアで紹介して大勢の観光客を誘致しよう！！

去年はごみのポイ捨ても多くて、みんな困ったじゃない。
それなのにさらに多くの人を呼ぼうとするなんて、とんでもない！
去年みたいに観光客が大勢来るのだったら、お祭りの中止もやむを得ないよ。



大勢の観光客が訪れるようになったことで、今年もお祭りを開催することができるのかが、議論になっているようです。それぞれに言い分があるようですが、あなたはどちらの意見に賛成できますか？

ワークシート

- 1) お祭りを続けることとやめること、それぞれのよい点／悪い点を次の表を使って整理し、問題点を明らかにしましょう。

	お祭りを続ける	お祭りをやめる
良い点		
悪い点		

- 2) お祭りを続けるにしてもやめるにしても、住民の間に不満が残りそうです。どうにかして、みんなが納得できる方法が見つからないでしょうか。
問題となっている悪い点を「結果」として、なぜそのことが起こるのか、「原因」を考えてみましょう。

<結果>

<原因>

は、

が原因で起こる

- 3) 今回のCASEにおける主要な問題の1つに『ごみの捨て方』があります。この『ごみの捨て方』についてお祭りを中止してごみのポイ捨てが行われないようにすること以外のよい方法があれば、この争いは解決することができそうです。
お祭りを中止する派としない派に分かれて、お互いが納得する解決策がないかどうかを話し合い、導いた解決策を記入してください。

<話し合った解決策>

記入例

- 1) お祭りを続けることとやめること、それぞれのよい点／悪い点を次の表を使って整理し、問題点を明らかにしましょう。

	お祭りを続ける	お祭りをやめる
良い点	● 観光客が訪れ、地域が活性化する	● ごみのポイ捨てによって悩まされることがなくなる
悪い点	● ごみのポイ捨てが増える	● 地域を活性化する機会がなくなってしまう

- 2) お祭りを続けるにしてもやめるにしても、住民の間に不満が残りそうです。どうかして、みんなが納得できる方法が見つからないでしょうか。
問題となっている悪い点を「結果」として、なぜそのことが起こるのか、「原因」を考えてみましょう。

〈結果〉

〈原因〉

ごみのポイ捨て

食べ物の容器
ゴミ捨て場の数

は、

が原因で起こる

- 3) 今回のCASEにおける主要な問題の1つに『ごみの捨て方』があります。この『ごみの捨て方』についてお祭りを中止してごみのポイ捨てが行われないようにすること以外のよい方法があれば、この争いは解決することができそうです。
お祭りを中止する派としない派に分かれて、お互いが納得する解決策がないかどうかを話し合い、導いた解決策を記入してください。

〈話し合った解決策〉

- **食べ物の容器をプラスチック製の再利用可能な容器とし、テポジット方式による回収スペースを設ける**
- **ゴミ捨て場の数を増やすとともに、ごみの分別を徹底して、ポイ捨てをしないでも済むようにする**

指導のポイント

今回のケースでは、お祭りの開催を主張する側と中止を主張する側、それぞれの主張を整理するだけでは、お祭りそのもののメリット／デメリットの比較となってしまう、双方が納得することは難しい状況にあります。

しかし、そこで起きている問題（結果）に焦点をあて、その解決方法を検討してみることで、お祭りの開催／中止以外の方法によって問題を解決することができる可能性が見出せることがわかります。例えば、記入例で示したようなお祭りにおける容器の回収制度は、祇園祭において実施された実績があるように、準備次第で実現可能な解決策となっています。また、ごみ捨て場を増やし、分別を徹底することで、ごみのポイ捨てを減らすとともに資源のリサイクルを促すことは、野外での音楽イベントなどではよく見られる光景です。

このように、ワークを通して学んだ事柄が現実の社会的問題の解決に役立つことを伝えることで、学びに対する生徒たちの動機づけにつながる可能性があります。

また、今後の展開として生徒たちにさらなる「話し合いの技法」を紹介することも考えられます。

社会的問題解決に向けて、世代や立場の異なる人々を結びつけ、問題解決に向けた方策を導き出していくためにファシリテーションなどの「話し合いの技法」への注目が高まっています。実際に、ワールド・カフェや市民討議会などの話し合いの場が、市民団体や地方議会、行政など、様々な主体によって各地で開催されています。ファシリテーションをはじめとするこれらの技法や取組みのエッセンスについては、明るい選挙推進協会などの様々な団体がweb上で公開しています。

「私たちが拓く日本の未来」において、模擬議会やディベートの中で具体的な発言方法のフォーマットが紹介されているように、話し合いを充実させるため知っておくべき基本的な事柄があります。また、英国におけるシティズンシップ教育においても「技能」の取得は重視されています。

外部機関による情報を紹介することで、生徒たちにさらなる学びの機会を提供し、主権者意識を育むきっかけとしていくことも期待されます。

Webで閲覧可能な参考資料

森 雅浩「ファシリテーションのすすめ」（明るい選挙推進協会のwebサイトに掲載）
[\[http://www.akaruisenkyo.or.jp/citizenship/5586/\]](http://www.akaruisenkyo.or.jp/citizenship/5586/)

横浜市「策定のプロセス（イマジン・ヨコハマの軌跡）」
[\[http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/outline/brand/process.html\]](http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/outline/brand/process.html)

the WorldCafe [\[http://www.theworldcafe.com/\]](http://www.theworldcafe.com/)

#〔英語〕ワールド・カフェを開催する際のガイドラインや、海外での事例動画などを参照できます。

Column 「祇園祭ごみゼロ大作戦」

祇園祭は、京都の夏の風物詩として、全国各地から大勢の観光客が訪れています。このお祭りにおいて、排出されるごみの量は合計60万トンにも上ります。（2013年度実績）

京都議定書にも代表されるように、京都は環境意識の高い若者や非営利団体が今も活動を重ねる都市です。そのような背景もあったからでしょうか、2014年に夜店や屋台の協力のもと、日本初、そして世界初の試みとして、約21万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動が展開されました。総勢2,000名を超えるボランティアスタッフによるエコステーションの設置やごみの分別作業の結果、排出されたごみの量は前年度比40%減となる34万トン。前年度に比べて山鉾巡礼の期間が1日延長され、来場者数が12万人増える中での出来事でした。

ワークでも紹介したように、社会的問題解決における解決方法は1つとは限りません。「地域を大きく変えるには、『ワカモノ・バカモノ・ヨソモノ』の力が必要である」と主張されることもあります。

18歳選挙権が、若者や若者に関わる様々な大人の意識を変え、柔軟な思考で、大胆に地域の変革を引っ張っていく、地域で活躍していく「ワカモノ」を生み出すきっかけとなっていくことが期待されます。

参考webサイト：祇園祭ごみゼロ大作戦 <http://www.gion-gomizero.jp/>

主要参考文献

沖縄県選挙管理委員会『小さな市民の 大きな力（2012年改訂版）』、2012年
 香取一昭、大川恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社、2009年
 篠藤明德、吉田純夫、小針憲一『自治を開く市民討議会』イマジン出版、2009年
 篠原一『市民の政治学』岩波新書、2004年
 篠原一（編）『討議デモクラシーの挑戦』岩波書店、2012年
 常時啓発事業のあり方等研究会「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書、2011年
 総務省、文部科学省『私たちが拓く日本の未来』、2015年
 長沼豊、大久保正弘（編）『社会を変える教育』キーステージ21、2012年